井上源氏の里 歴史マップ

井上町・二睦町・幸高町・米持町・九反田町・中島町・福島町

天神一号墳から出土した家形埴輪

発行／井上地域づくり推進委員会　歴史マップ編集委員会
須坂市大字幸高274-3番地（井上地域公民館内）TEL 026-246-2488

はじめに

井上地域には鮎川と千曲川が流れ、鮎川によってできた扇状地は文字どおり、扇形の砂礫の多い土地となり乾燥しやすいが、扇端からは豊かな水が湧き出ている。また千曲川によって運ばれた土砂の堆積によって自然堤防や肥沃な沖積層が広がっている。この二河川が流れる川辺りや扇端に原始（縄文・弥生時代）から人が住みつき、しだいに多くの集落となって現在に至っている。ここに住む人々によって培われた文化や歴史が生き続けている姿の紹介である。

井上町

❶ 十九ケ塙の船寄地蔵と夜燈（つづがはなのふなよせじぞう　やとう）

山の端で千曲川の流れや一面の洪水時に船寄せに利用された場所で、安全の願いから地蔵尊を祀り夜燈を建てた。

❷ 枕状溶岩（県天然記念物指定）（まくらじょうようがん）

枕状溶岩は、地下のマグマが水中に流れ出る際に急激に冷やされて起こる現象で、今からおよそ2400万年前の新生代第三紀の頃に出来たといわれている。当時この一帯は海の中にあり、かなり広い範囲で活発な海底火山が活動していたと考えられ、日本列島や長野盆地の生い立ちを考える上で大変貴重な現象である。

❸ 金口遺跡　かなぐちいせき

金口地籍の低湿地は、約2000年前の弥生時代（中期）より稲作が行われてきたところで、土師器（はじき）、須恵器（すえき）、灰釉陶器（かいゆうとうき）などの土器が多く出土している。

❹ さくらの山

昭和63年から井上城址さくらの会の依頼によって毎年地元の中学3年生の卒業記念として桜が植樹されている。

❺ 井上氏の山城跡　竹ノ城・大城・小城（県指定史跡）（いのうえしのやましろあと　たけのじょう・おうじょう・こじょう）

井上氏の居館を南方より取り囲むように、東より竹ノ城・大城・小城を城塞群とした山城で、三つの城が相互に呼応して作戦できる「別城一郭」ともいわれ、それぞれは縄張り・防御設備・規模ともに最も優れている。

❻ 井上氏居館址（県指定史跡）　いのうえしきょかんし

井上氏は源頼信の第三子掃部介（かもんのすけ）頼季を祖とする信濃源氏の名流で平安末期から慶長3年（1598）上杉氏にしたがって会津に去るまで4世紀余りに渡ってこの地を領し、その本拠地がこの居館址である。慶長19年（1614）に小笠原忠知領の陣屋がおかれ、以後幕府領の陣屋となっていた。

❼ 小坂神社　おさかじんじゃ　［写真裏面］

「延喜式」の古い神社で、産土神（うぶすなかみ）として高角身命（たかつみみのみこと）が祀られた。11世紀半ば、源頼季・満実親子が国衙領（こくがりょう）であるこの地に移封され、井上氏を名のり八幡神誉田別命（ほんだわけのみこと）を勧請した。以後「小坂八幡」といわれ、近在の井上十六郷の総社として崇敬されていた。境内には神農宮社の他地区内に散在していた若宮社をはじめ九社が神社整理令によって移されたが、現在若宮社以外は不明である。

❽ 曹洞宗　三佛山　安養寺（そうとうしゅう　さんぶつざん　あんようじ）［写真裏面］

安養寺山麓と洞沢川の間に庫裡・本堂・観音堂・座禅堂がある。天文15年（1546）綿内の如法寺二世明庵商察和尚によって開かれ、近世初期に金口地籍から現在の地に移ったといわれる。本堂には地蔵菩薩、観音堂には十一面千手観音、釈迦牟尼仏の三尊が安置されている。

❾ 浄土宗　井上山　浄運寺（じょうどしゅう　いのうえさん　じょううんじ）

井上山山麓にあり本尊は阿弥陀如来である。境内に仁王門・開山堂・六角堂（釈迦堂）があり、開山堂の前には六字名号の石塔がある。開基は井上出身の角張入道成阿で宗祖法然上人常随の直弟子である。建保2年（1214）井上北町に精舎を建て浄運寺とし、二十七世梵誉文宗（ぼんよぶんしゅう）の時、現在地に移る。本堂と仏画絹本着色釈迦三尊画像は市指定文化財。参道の左側には**六地蔵**（ろくじぞう）がある。この6体は人間の苦しみを六道（地獄・餓鬼・畜生・修羅・人間・天）に分け、これらの苦しみの世界から救われるという六地蔵である。同寺の階段下にも六角柱状である石幢側面に六地蔵半肉彫りの座像がある。また**徳本上人名号石碑**（とくほんしょうにんめいごうせきひ）は浄土宗の念仏行者である徳本上人が、文化13年（1816）信州を巡って人々を教え導いた時の碑である。

❿ 道祖神　どうそじん

これは村の入口にあって、外から来たものの正体を見極め、悪者や災厄、悪病をもたらす者の侵入を防ぎ村人の安泰や縁結び子授けを願って建てられた道祖神である。今の小正月の1月15日に行われる「どんど焼き」と呼ぶ火祭りは、厄払いの神である道祖神の行事で、昔は村の若者組や子供仲間によってすべて執り行われていた。表面　道祖神　裏面　右　天保三年辰　左　十一月吉日

⓫ 角張氏屋敷跡地　かくはりしやしきあとち

角張成（浄）阿は法然上人に常に従い身の周りの世話をする高弟で、浄運寺の開基である。この屋敷跡は角張氏累代の居住地で今も残り、四周の小堰は往時の水濠の痕跡と考えられる。

⓬ 井上氏墳墓（県指定文化財）

このあたり一帯は中世井上氏関係の居住地があったところである。中世の豪族の墓は屋敷内に設けることが多かった。明治初年にこの辺りを開墾したとき、散乱していた墓石を集め、塚を築いて祀ったものがこの墓地である。

⓭ 毘沙門堂　びしゃもんどう

堂内には、いずれも30cm位の極彩色で左に「毘沙門天」と右に「愛宕神」の木像が安置されている。毘沙門天は福や財をもたらす神とし、また北方を守護する軍神として武士の間で信仰され、愛宕神は防火の神で土栗の人たちによって守られている。

⓮ 大日堂跡地　だいにちどうあとち

この辺り百坪ほどの土地に井上源氏の祖井上満実が、井上氏の祈願寺である大日堂を建てたと伝えられる。

⓯ 浄土真宗　長妙寺跡地　じょうどしんしゅう　ちょうみょうじあとち

戦国時代末期、甲州（山梨県）の青木氏が井上の地に移住し、ここに青木山長妙寺を建てた。その後市内豊丘地籍に移転したが、現在も井上・米持・幸高

の各町に長妙寺の檀家がある。

⑯ 道祖神 どうそじん

上土栗の入り口にある双体道祖神である。建立年月不明　側面　上土栗　建立　昭和五十四年一月二十五日（阿弥陀堂から移したとき刻字）

⑰ 二十三夜塔 にじゅうさんやとう

中馬講中によって建てられた文字塔で、二十三夜の月の出を待って、中馬仲間が集まり、一定の儀式を行い、仕事の相談や飲食を共にして親睦を深め、最後に月の出を拝んで解散した。江戸時代から明治の信越線開通まで盛んに行われた大笹街道や谷街道での中馬稼業が偲ばれる。表　二十三夜　裏　中馬講と刻まれている。

⑱ 馬頭観世音 ばとうかんぜおん

古い時代から馬が人や物資を運ぶ主役であった。街道や宿場が整備され、人の行き来や物資の流通が増えてきた江戸時代の初めごろから、伝馬（てんま）が宿場から宿場への運送をしていた。それと並んで、農家の作間稼ぎとして手飼いの馬で運送して、駄賃を稼ぐ中馬と呼ばれる業者が出てきた。伝馬は、宿場毎に荷物を継送（つぎおく）していくのに対して、中馬は自分の馬を使い、目的地まで荷物を降ろさないで、運送できるという利点から伝馬をおびやかすので頭数は定められていた。このように馬を供養し、あわせて旅の無事を祈って、街道沿いに数多くの馬頭観世音が建てられた。

文字碑　自然石に刻まれ道標と兼ねる。

表面　　右八　仁礼道　　左八　米子ふとう道　（中央）馬頭観世音

側面（右）安政二乙年八月吉日

（左）願主　井上村　半右エ門

⑲ 井上の堰水 いのうえのせぎみず

鮎川より取りいれたこの堰水は12、13世紀に井上氏によって旧鮎川跡に掘られたもので、ここに人々が集まり、井上の今里（現在の井上町）が生まれた。

⑳ 阿弥陀堂 あみだどう

大笹街道沿いにあるこの堂は、川中島合戦以前より無縁仏の堂として建立され、寛永7年（1630）の頃は浄運寺隠居所として寺の管理下にあったが、その後阿弥陀如来像を安置し、「阿弥陀堂」と呼ぶようになった。また、大正から昭和の頃には、稚蚕飼育所にも使われ、現在は、上町の集会所にもなっている。堂の前には、**道祖神・庚申塔・馬頭観音・聖観音・六地蔵塔・経典供養塔・回国巡礼塔・六字名号石碑・芭蕉句碑・戦死者供養碑・寛行院**（かんぎょういん）文字の石標などがあり、堂の北側には、共同墓地に地蔵尊像がある。

㉑ 浄土真宗　坂原山　円了寺（じょうどしんしゅう　さかはらざん　えんりょうじ）［写真裏面］

参道の正面に本堂、左右に庫裡と鐘楼があり、本堂には、1メートルの阿弥陀如来像を安置する寺である。親鸞聖人の弟子唯信によって、承元2年（1207）越後國頸城郡嶋倉に開寺し元和元年（1615）現在地に移る。承応3年（1654）当時の兄が中島に潜龍山圓長寺を建てて分かれたので、宝永6年（1709）現在の寺名に変更し、今日に至っている。

㉒ 井上村役場跡 いのうえむらやくばあと

明治22年（1889）井上・幸高・米持・九反田・中島・福島の各村が合併して井上村となり、その村役場となった。昭和30年（1955）に須坂市と合併するまで66年間村行政の中心であった。

㉓ 真言宗　桐生山　鳳来寺（しんごんしゅう　とうせいざん　ほうらいじ）

明治の初めに廃寺になっている間口二間ほどの小さい寺である。本尊は千手観音で二体あり、他に釈迦如来・高僧の椅座像などが安置される。道路沿いには、養蚕神・秋葉大権現の文字石塔のほかに、道祖神・庚申塔・三界萬霊塔・新四国巡礼所・御詠歌塔などがある。**新四国巡礼所**（しんしこくじゅんれいしょ）は鳳来寺は新四国の霊場札所の一つであったと考えられる。火防の神としてあがめられてきた**秋葉大権現**（あきばだいごんげん）が、またよい繭が取れるよう蚕の飼育に心血を注ぎ神に祈る思いから生まれた**養蚕神**がある。

㉔ 虎御前 とらごぜん

鳳来寺へ通じる小路の南側に、「お虎塚」と呼ばれる古跡がある。かつては古びた五輪塔が礎石の上にあり、その隣に墓石が並んでいたが、現在はほぼ卵型の石に「虎御前」と文字を刻んだ碑が置かれている。仇討ち話として有名な『曽我物語』に由来する供養碑と伝えられている。

㉕ 道標 どうひょう

谷街道と善光寺道の辻

右　ぜんこうじ　　左　まつしろ

㉖ 道標 どうひょう

大笹街道と谷街道の辻

右　草津道　　左　須坂

㉗ 道標 どうひょう

大笹街道と作場道

右　くさづどう　　左　さくばみち

二睦町

㉘ 白山神社 はくさんじんじゃ　［写真裏面］

越前（現福井県）の泰澄（たいちょう）によって開かれた白山信仰の本社である加賀（石川県）の白山比咩（しらやまひめ）神社から勧請した神社で、祭神は菊理姫命（くくりひめ）・伊弉諾尊（いざなぎのみこと）・伊弉冉尊（いざなみのみこと）である。大正11年に建立され昭和51年に改築されて今日に至っている。以前は野庄地域にあって村人のご加護を願い心のよりどころであった。社殿前にある「白山大権現」の社標は野庄にあったものである。境内にある**秋葉神社**（あきばじんじゃ）は、火防せの神として火災の難を逃れることを願って祈り、白山神社と併せて祭りが実施されている。

㉙ 道祖神 どうそじん

自然石の道祖神で以前は現在地より10m位北集落の境にあったが、市道、国道の道路変更や拡幅等で移転を繰り返し現在地に移った。

㉚ 馬頭観世音・庚申塔（ばとうかんぜおん・こうしんとう）

現在は個人の屋敷道路沿いに大切に置かれている。以前は他の家の屋敷にあったものを、現在地に移転された。

馬頭観世音　舟型半肉彫　天保10年戌4月20日

庚申塔　二つの丸い図形は、太陽と月と思われる

㉛ 地蔵菩薩 じぞうぼさつ

覆屋の中にある高さ約65cm程の地蔵菩薩である。由来は不明であるが、白い帽子や前掛けなどを着せたり線香や供物を手向け、土地の人々の信仰を集めている。

幸高町

㉜ 弁財天 べんざいてん

元禄16年（1703）の村絵図にも記載されており、今も信仰を集めている。

㉝ 庚申塔 こうしんとう

青面金剛像で上部に日と月、下部に二鶏・三猿、建立年月不明

㉞ 双体道祖神 そうたいどうそじん

夫婦和合の姿で彫られ、建立は記録では「□□二丁亥九月吉日　北組」。庚申と共に毎年正月「お日待ち」（新年会）にお供え物をし祀っている。

㉟ 供養塔 くようとう

「奉納大乗妙典六十六部日本廻国供養塔」建立が文政七年甲申二月（1824）、本願主宇右ヱ門。右隣が「奉納百番四国供養塔」、建立天保十四年卯年八月（1843）宇右ヱ門妻れつ。

㊱ 忠魂碑 ちゅうこんひ

旧井上村の戦没者を記念するために建てられた碑。明治32年から第二次世界大戦までの132名の方の名前が裏面に刻まれている。

㊲ 谷街道 たにかいどう

鮎川橋のたもとから井上小学校の校舎とグランドの間を通り、道辻を南へ井上町に抜ける道。須坂大道ともいわれている。谷街道は南は稲荷山から北は安田で千曲川を挟んで東・西通りに分かれ新潟県十日町に至る間である。

㊳ 組合製糸工場跡地（くみあいせいしこうじょうあとち）

現在は畑・水田となっている。設立時期等詳細は不明。

㊴ 馬頭観世音 ばとうかんぜおん

建立は嘉永三年九月（1850）

㊵ 越智神社（延喜式）（おちじんじゃ）［写真裏面］

祭神は物部氏（古代の氏族の一）の祖神饒速日命（にぎはやひのみこと）・相殿に諏訪神の建御名方命が祀られている。氏神として区民から崇敬されている。境内社には**「神明社」「秋葉社」「蚕神」「飯綱・稲荷社」「天神社」「庚申3基」「川除大明神」「稲荷社」「熊野社」「雁田社」「神明社2基」**があり主に石祠。又境内に**「御神木」「越智池」**がある。越智池には「弁財天」が祀られ井上殿・須田殿・高梨殿の三神石があり、「三峯紀聞」による「霊水」として有名。雨乞いの神事も行われた。

㊶ 大日堂跡地 だいにちどうあとち

明治初年に廃堂。石造　大日如来座像は秀泉寺の持仏となっている。大日堰は井上田圃の水源ともなっていた。

㊷ 供養塔 くようとう

山岸氏宅。「奉納　西国・秩父・坂東供養塔」建立「天保□年□月□□」　願主　長蔵妻。

㊸ 日吉社跡地（ひよししゃあとち）

七社明神、日吉山王ともいわれ、祭神　大山咋命（おおやまくいのかみ）。明治40年（1907）の神社整理令により越智神社に合併。写真は明治41年（1908）で100年余も前の貴重なもので松沢家に伝えられている。

㊹ 供養塔 くようとう

寮の敷地内、表に「供養塔」とあり建立年月は不明

㊺ 曹洞宗　竹前山　秀泉寺（そうとうしゅう　たけまえさん　しゅうせんじ）［写真裏面］

本尊は釈迦如来。開山は元和三年（1617）越後の国松の山村、観音寺第七世・実堂（道）本際和尚。享保十一年（1726）井上村竹前仁右衛門が高20石の土地を寄進し竹前山秀泉寺と改め、井上小学校の前身「道生学校」もおかれた。境内に芭蕉句碑がある。

㊻ 太子堂 たいしどう

平成23年改修・建立され、木造の太子像と聖徳太子の掛絵図を祀っている。

㊼ 神明社（神明宮）跡地（しんめいしゃあとち）

祭神　天照大神。記録では社地二百坪、越智神社に遷座。写真は松沢家に伝わり

100年余前のもの。

㊽ 熊野社（熊野大権現）跡地 くまのしゃあとち

祭神　事佐迦男命（ことさかおのみこと）、速玉雄命（はやたまおのみこと）、伊弉諾命（いざなぎのみこと）。越智神社境内へ遷座

㊾ 川除大明神（大神宮）跡地 かわよけだいみょうじんあとち

祭神　天照大神。鮎川の川荒れを除くべく祈って、一番荒れ易い源に祀った。記録では社地百坪、越智神社境内へ遷座。

㊿ 供養塔 くようとう

場所幸高共有墓地。「天下和順　奉納　妙典六十六部」建立□月□日清明、
願主　信州高井郡幸高青木氏長三。　元の場所は不明。

米持町

51 米持神社 よなもちじんじゃ　[写真裏面]

水難で正徳5年（1716）大道下北ノ割より現在地に遷座される。祭神は天照大神、建御名方命（たてみなかたのみこと）。現在の本殿、祝詞殿、拝殿は明治11年(1878)に再建されたものである。また、この**鳥居**は明治21年(1888)高井の亀原九三郎の棟梁によって建てられその**額**は、亀原和田四郎系統を引く名工によって彫られた透かし彫りは見事である。なお、境内の南部分には**養蚕大神**の大きな石塔がある。明治も後半に入りいよいよ養蚕が盛んになってきたことが窺える。彫字は中島淡水の書である。本殿のすぐ南に建っている**秋葉社**は天保12年の建立。

52 庚申祠 こうしんし

寛政12年（1800）の建立と思われる。祠の中に15cmくらいの青面金剛像が安置されている。この場所は、庚申畑地籍の古い街道の三叉路にあって昭和20年代までこの近辺の家々では1月15日のお日待行事を行っていた。

53 浄土宗　大慈山　西蓮寺 じょうどしゅう　だいじさん　さいれんじ　[写真裏面]

井上浄運寺の勝誉上人の孫天誉上人が延宝元年(1673)米持氏の霊を弔い開祖となる。明和年間(1764～1772)水難に逢い大道上南の割より現在地に移築される。本尊は阿弥陀如来さま。現在は町寺として管理している。なお本堂に向って右側にある**観音堂**は、慶安2年(1649)仁礼大峡地籍より現在地に安置された。本尊は如意輪観世音菩薩。また、参道の入り口のすぐ右脇にある小さな祠は**庚申祠**で、元文5年(1740)の建立と思われる。米持で最初の最も古い庚申祠である。表に三猿の幾何学模様が浮かび上がっている。さらに**深井戸**は明治20年(1887)米持町に最初に掘られた深井戸で深さは20m位、この時代から米持の用水堰の酸性度が増し飲用水として使えなくなったため、苦肉の策で掘ったものである。その後大正期まで7か所の井戸が掘られた。

54 道祖神・庚申塔 どうそじん・こうしんとう

万延元年（1860）の建立。この時期になると庚申信仰と道祖神信仰が合体し1月15日の旧正月の行事のお日待ちが行われるようになる。題字は中島淡水である。

55 庚申塔 こうしんとう

昭和55年の建立。現在最も新しい塔である。題字は当時須坂市長であった山際順様によるものである。

56 伊勢宮社 いせみやしゃ

この場所は昔から水害に悩まされた処で、水除けを願って建てられたが度々の洪水で流され何度も建て替えられ今日に至る。現在も祭りを行っている。

57 庚申塔 こうしんとう

大正9年の建立。伊勢宮社と同日に祭りが行われている。

58 松五郎地蔵尊 まつごろうじぞうそん

嘉永5年（1852）に須坂の坂田村で起きた殺人事件当時被害者宅の使用人松五郎が仲間と共謀して主人の留守中にその妻と娘と、そこに同居していた使用人の娘3人を殺害し各地を転々と逃げ廻り最後に駿河で捕まり磔の刑にあった。それを哀れんで綿内の蓮台寺の和尚が供養のために建立したもの。5月5日の子供の日に米持区の役員が呼ばれ祭りを行っている。

59 地蔵尊 じぞうそん

旧西蓮寺跡に建てられ台座石に、「文化13年故西蓮寺境内」と銘記されている。正面台石に徳本上人による六字名号が刻んである。上人が浄運寺を訪れたのを記念して建立されたと思われる。

60 旧米持神社跡地 きゅうよなもちじんじゃあとち

正徳5年以前迄この場所に米持神社があったが、洪水に逢い野辺用水から堰水を引き人家とともに現在地に移転される。古老に聞いた話では、国道403号線の東脇に欅の古い伐株が残されていたそうである。

61 金刀比羅社 ことひらしゃ　[写真裏面]

鮎川の霞堤の突端に祠られ水除けの神として建てられた。

62 天神塚一号墳 てんじんづかいちごうふん

5世紀頃の一辺が30m程の上円下方墳であったようである。鮎川古墳群の中で最も大きい墳墓である。出土品として珍しい家形埴輪が出土し現在市の博物館に陳列されている。表紙写真参照。

63 天神塚二号墳 てんじんづかにごうふん

1号墳から西北西おおよそ50mの処にあった完全な積石塚である。各種の弥生式土器が出土されている。

九反田町

64 旧清賢寺跡地 きゅうせいけんじあとち

かっては清賢寺のあったところである。本尊の阿弥陀如来像は、江戸浅草の源光寺の第五世西誉了波上人が信奉されていた御本尊で事情により清賢寺の本尊となる。当時阿弥陀院と呼び（浄土宗）、その後阿弥陀院も無住となる。文政元年（1818）に埴科郡寺尾村禅福寺より知足愚賢和尚が入り開基となって曹洞宗に改宗され、二世英岩満全和尚の代に寺号を清賢寺に改めた。明治6年（1873）廃寺となり青年たちの学習の場または村人の寄合の場所となる。

65 道祖神 どうそじん

高さ153cmの自然石の道祖神。明治時代に須坂藩で活躍した北村方義の書で明治24年（1891）4月建立

66 庚申塔 こうしんとう

九反田町で最も古い庚申塔で元文2年（1737）建立。左右側面に6人づつ施主名が刻まれている。

67 大元四社之宮 おおもとよやしろのみや　[写真裏面]

公会堂西北隅にあり、天照皇大神を祭神としている。拝殿には、明治のころ奉納された俳額があり、信仰を集めた社である。社の東側には、北河原にあった白山社・猿田彦命社・金刀比羅社の石祠がある。明治28年宮地は個人所有となる。

68 金刀比羅神社 ことひらじんじゃ

この神社は、百々川（市川）洪水による危難除けとして宝暦年間に祀り嘉永年間（1845）に氏神として金刀比羅大社の御分霊を奉請して産土神として厚く尊崇し今日に至っている。なお、この北側には養蚕神社がある。

69 梅逸翁寿碑 ばいいつおうじゅひ

穂刈芳太郎は、文久3年（1863）九反田町に生まれ、華道と俳諧に長け華道では福島地区の一寿斉の門下に入り一寿斉と名乗り、俳諧では須坂俳道の大宗匠田の本一秀の門下で梅逸と名乗る。碑は大正13年（1924）門弟により建立

70 庚申塔 こうしんとう

表面一窓、二鶏
寛文11年（1672）亥7月吉日奉造

71 鮎川変更碑 あゆかわへんこうひ

鮎川は、明治29年から31年まで3年続きの洪水で、人家や建物、耕地は押し流され川は深く掘り下げられて、今までの川との高低差が2.0～2.5mになり復旧の見込みが立たなくなったので、そのまま新しい川敷とし、河川を変更し、その記念として現在の火の見下に碑を建立した。その後、昭和12年に鮎川の下流域の一部を変更し変更碑裏面にそのいきさつも刻み現在地に移転した。

72 馬頭観世音 ばとうかんぜおん

旧鮎川河原に自然石の文字碑と舟型半肉彫り像の二基共に建立。建立年月日等不明

73 金刀比羅祠 ことひらし

石祠　金刀比羅神社の前身で俗称金毘羅さんと呼ぶ。

74 百々川変更記念碑 どどがわへんこうきねんひ

新百々川の瀬替えに合わせて北に流れを変えた記念碑。昭和6年（1931）3月起工
昭和10年（1935）3月竣工

中島町

75 猿田彦命碑 さるたひこのみことひ

この碑は堤防上にあったが、平成5年に現在地に移された。猿田彦命は道案内の神であるが、中世には道祖神と結びつき、後に猿から庚申信仰とも結びついた。

76 一夜堤防 いちやていぼう

中島集落では、延宝三年（1675）に集落の南方字初毛場より東の粟地河原九反田境に至る長さ八百四十七間、馬踏六尺、敷三間三尺、高さ六尺の堤防を築き、粟地河原

外を郷五郎池から流れる百々川（郷五郎川）の水害から守るため短期間で築いた。これを一夜堤防と呼んでいる。

㊼ 近藤照真猊下寿碑（こんどうしょうしんげいかじゅひ）

近藤照真は、明治十九年、齢二十九歳の時善光寺副住職奥田貫照の仏弟子となり、以後天台宗大学に入り修学研徳した。明治四十三年には常陸國真壁郡（現茨城県桜川市真壁町）の観音寺住職（権僧正）となった。大正15年、中島区及び中島青年会のよって圓長寺敷地内に建碑されたが、平成12年生家前庭に移築されている。

㊽ 諏訪神社（すわじんじゃ）【写真裏面】

本殿の主祭神は、諏訪神の建御名方神で相殿として天照皇大神と養蚕の神の二神が諏訪神の左右に祀られている。

㊾ 阿弥陀堂跡地（あみだどうあとち）

現在は廃寺となり、中島本集落の中程に村持ちの堂であった。建立は不明。当時の村人たちの信仰や寄り合いの大切な場所であった。その後、焼失しそこに民家が建ち現在に至っている。

㊿ 浄土真宗　潜龍山　圓長寺（じょうどしんしゅう　せんりゅうさん　えんちょうじ）【写真裏面】

浄土真宗を開いた親鸞聖人の門弟宗信によって、承元元年（1207）越後の国、頚城郡高見町嶋倉にて開寺、その後元和元年（1615）井上に移り、坂原山円了寺を開いたと言われる。更にそこから分かれ元禄十四年（1701）中島に一寺を建立、潜龍山圓長寺とした。なお、敷地内には寺内の寺として**万蔵寺**がある。

(81) 中島排水機場（なかじまはいすいきじょう）

平成6年に、上信越自動車道須坂・中野間の工事と連動した形で中島排水機場が設置され、主に川瀬川と田用水の落ち水の満水時高圧ポンプによって新百々川に排水する設備である。

(82) 百々川改修記念碑（どどがわかいしゅうきねんひ）

この記念碑は、小布施地籍で千曲川に流れ込む旧百々川の度重なる洪水を防ぐため、近隣3村（井上・日野・豊洲）からなる百々川水害予防組合が、直接西を流れる千曲川に流れ込む流路変更を決意し、国の補助を得て改修された。この時川瀬川も掘られた。その経過を後世に伝えるため昭和12年に建立された。

(83) 福島北排水機場（ふくじまきたはいすいきじょう）

この排水機場は、昭和34年の鮎川・百々川の堤防の決壊や、度重なる権五郎川や川瀬川の満水によって発生する、福島・中島地区の農地等への湛水をポンプ圧送して千曲川の堤内へ排出する施設として昭和41年に設置された。

福島町

(84) 福島排水機場（ふくじまはいすいきじょう）

現在の堤防は内務省堤防として昭和16年に全面完成し、その付帯工事として千曲川から権五郎川への逆流を防ぐために増水時に閉門する水門を併設した。その後、権五郎川の満水した水をポンプ圧送して堤内へ排出する施設が平成8年に加設された。

(85) 馬頭観世音（ばとうかんぜおん）

江戸末期から明治初頭にかけての建立と推定されている。総丈3.15メートルと大型の舟形光背の騎上観音像である。観音像の基壇に右中野小布施道、左北国街道、布野船渡、善光寺道と記され、観音像と道標を兼ねていて、北国街道と飯山道との分岐点にあった。

(86) 庚申塔（こうしんとう）

石祠には宝永7年11月30日（1710）と記されている。庚申（おかのえ）の日には、当番の家に「おかのえ」仲間が集まって床の間に青面金剛（又は猿田彦命）の掛け軸を掛け、お祈りをして質素な料理で食事をする。庚申の夜に眠ると体内から三尸（さんし）の虫が抜け出して天帝に日頃の罪を告げ早死にするとの言い伝えから、一晩中寝ずに世間話等をして明かすのである。当地方では、第二次世界大戦前後まで続いていたが、その後ほとんど姿を消し一部の庚申仲間〈講〉が残っているだけである。

(87) 浄土宗　光明山　西福寺（じょうどしゅう　こうみょうざん　さいふくじ）【写真裏面】

建久3年（1192）に法然上人の直弟子金光上人によって開基された。福島町では一番古い寺である。寺内には病気平癒を願う医薬門である山門と左手に**薬師如来堂**があり、平成16年（2004）100年ぶりに堂宇が再建され薬師如来像が本堂より安置された。境内に**庚申塔**が2基並んで建っている。向かって左側の塔は市内最古のもので寛永20年（1643）と記され、右側の塔は、寛延2年（1749）の建立である。この2基は以前は現堤防の西側の福島宿の北口にあった。

(88) 小林京之助碑（こばやしきょうのすけひ）

建碑大正4年
碑文「君に忠　親に孝行は　国の花」
同郷の俳諧師　田ノ本一秀に学び、後、田ノ本二世となり田ノ本誼道と号した。

(89) 旧本陣（きゅうほんじん）

問屋を兼ねていた。本陣は、大名・公家・幕府役人などが宿泊し、問屋は、荷主の物資を一定の口銭をとって仲買人に売りさばいたり用書類の逓送、輸送人馬の差配、助郷人夫の賃金会計などの帳付けも行っていた。

(90) 市川大膳筆塚（いちかわだいぜんふでづか）

建碑明治3年　碑文　筆塚　台石の左側に「幾千年　経る共朽ちぬ　石碑に　恥と手本は　書くは残れる」　神官、寺子屋師匠

(91) 堀 信山碑（ほりしんざんひ）

建碑不詳　碑文　堀　信山　長崎に遊学し蘭医学や薬物学を修め松代藩医となる。

(92) 天神社（てんじんしゃ）【写真裏面】

福島町の氏神（産土神）、天徳4年（960）頃に京都北野天満宮より勧請された。当初は雷雨天災を鎮める神として千曲川の洪水水害除けを願って祀られたが、現在は学問の神としても尊崇されている。拝殿前に一対の牛の石造があるが、道真と牛との関わりが深かったことで天神社の守護神となっている。ほかに、境内社として**八坂神社、養蚕社、白山比咩神社、金刀比羅社、伊勢社、蚊里田八幡社、熊野権現社、三峯社、秋葉社**がある。

(93) 大幟（市文化財指定）（おおのぼり）【写真裏面】

明治13年の現天神社新調再建にあわせて奉建された。現在の竿は二代目で、それぞれ高山村の篤志家より寄贈され、幟旗の書は高井鴻山73歳の時の揮毫である。
懋徳（ぼうとく）→徳をつとめ
護衛（ごどう）→道を護る
と書かれている。竿の長さ　36.5メートル
旗の大きさ　長さ22.5メートル　巾4.0メートル

(94) 堀内佐重郎碑（ほりうちざじゅうろうひ）

建碑大正6年　碑文　一寿斉素鶴法橋碑
華道梶井宮の師範として多くの門弟を持つ。

(95) 郷五郎池跡地（ごうごろういけあとち）

元禄14年の福島の絵地図に現在地に郷五郎池の名前が出ている。その絵図から長さ南北に300メートルくらいと推察され、水源は主として八幡川と長野市温湯・大橋方面や井上町の水を集め、百々川へ流れていた。その後、千曲川へ流入されると池は次第に縮小し、明治13年の絵地図には池は出ていない。郷五郎池はその位置関係から現在の権五郎川の前身といえる。

(96) 庚申塔（こうしんとう）

元文5年庚申（1740）の建立、この庚申（おかのえ）仲間には現在も木彫りの青面金剛立像と祭具一式が残っている。

(97) 田ノ本一秀筆塚（たのもといっしゅうふでづか）

建碑　明治21年　碑文「ふすまては　風にひまなし　糸すすき」江戸の月ノ本為山から学んだ俳諧師で多くの弟子を持つ大宗匠である。

(98) 福島城跡地（ふくじまじょうあとち）

川中島合戦当時、軍事上の要地だったことから武田方によって築かれた城で須田氏の居城となっていた。その後上杉勢の支配となり、天正13年（1585）に落城した。

(99) 道標（市指定文化財）（どうひょう）

北国街道松代道と大笹道との分岐点の標柱、建立は1700年以後と考えられる。高さ88センチの本体には「右松代道、左草津、仁礼道」と記されている。大笹道はこれより東へ進み、井上、仁礼を通って大笹の宿（群馬県）から高崎、江戸へと通ずる街道。

(100) 旧分教場跡地（きゅうぶんきょうじょうあとち）

以前は現在地の西側にあった伊勢神宮の御師の宿所であった。その後子弟の教育の場として使用され、明治32年（1899）に一村一校制となり福島尋常小学校から井上小学校福島分教場と名称が変わる。その後井上小学校に統合されたため地域の教育施設として大きく貢献した。

(101) 浄土真宗　井上山　勝楽寺（じょうどしんしゅう　いのうえさん　しょうらくじ）

浄土真宗西本願寺派・井上氏一族の唯仏によって建保4年（1214）信濃町に開基された。その後飯綱町平出、長野市村山へと移転し、慶長11年（1606）に井上氏ゆかりの地である現在地へ移った。現在の本堂は大正12年（1923）に再建された。境内に**浄土真宗常徳寺**がある。西本願寺派で天明3年（1783）勝楽寺の寺内として創建、初代了性は隣町の中島町の出身、現在の本堂は5代目聞教によって再建された。

(102) 旧本陣（きゅうほんじん）

問屋を兼ねていた。

(103) 浄土宗　無衰山　浄国寺（じょうどしゅう　むすいざん　じょうこくじ）【写真裏面】

浄土宗、慶長7年（1602）（文禄元年の説もある）に長野市綿内の正満寺の二世呑空上人の隠居寺として創建された。現在の本堂は天明年間に再建された。寺内に**子育地蔵**がある。

(104) 水神祠・庚申塔（すいじんし・こうしんとう）

堤防上に三基の石祠が並んでいる。左右両端の二基は水神祠で、両祠とも千曲川の水難除けを祈念して建てられたものである。この二水神祠にはさまれた祠は庚申塔で、それぞれ集められ、現在も一番組の人たちによって祀られている。